

(1) 教員養成に対する理念・構想

①教員養成に対する福井工業大学の理念・構想

教育の専門職としての教員には、教育者としての使命感、人間の成長・発達に関する深い知識や技能、児童・生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的な知識・技能、広く豊かな教養、そしてそれらを基盤とした実践的な指導力が求められる。そこで、本学では、教員養成に対する基本的な理念（理想）として、次のようなものを掲げている。

- ア. 高い倫理観と人間性豊かな人格の陶冶
- イ. 変化の時代を生きる社会人に必要な資質・能力の育成
- ウ. 教職に対する専門的な知識・技能の習得
- エ. 人間の成長・発達についての深い理解と「生徒の発達する可能性を愛する」という意味での真の「教育愛」の涵養
- オ. 教育者としての使命感と自覚の高揚
- カ. 「工業」または「情報」「理科」「保健体育」という教科に関する高い専門的な知識・技能の習得とそれらに基づいた実践的な指導力の養成
- キ. 様々な教育的課題に対する理解、問題意識の高揚、「実践的な課題解決力」・「実践的な指導力の育成

また、教員として求められる具体的な資質・能力として、「一般教養科目」・「教科専門科目」・「教職課程の各科目（「教育実習」を含む）」の中で、次の事項の養成に努めるものとする。

- ア. 広い視野に立って行動するための資質・能力の形成
 - ・地球・国家・人間等に関する適切な理解と社会・集団における良好な規範意識
 - ・人間尊重、人権尊厳の精神、男女平等の精神、思いやりの心、ボランティア精神
- イ. わが国や地域に対する歴史認識、文化の理解と継承・発展、社会貢献への態度の形成
 - ・多様な価値観や考え方・立場の相違を理解し、それらを柔軟に受容力する資質・能力、さらに、それぞれの立場や能力に応じてそれらを発展させたり、それらを活かした社会への貢献
- ウ. 変化の時代を生きる社会人として求められる資質・能力の習得
 - ・個性と感性、創造性・論理的な思考力、継続的な自己教育力
 - ・社会性、コミュニケーション能力、自己表現能力
 - ・基礎的なコンピュータ活用能力、メティア・リテラシー
- エ. 教員の職務として必然的に求められる資質・能力の習得
 - ・生徒観、教育の在り方に関する適切な理解

- ・教育理論・方法・評価等の教育に関する基礎的な事項の習得
- ・教科指導、生徒理解のための適切な知識・技能の習得
- ・「カウンセリング・マインド」、地域や家庭との円滑で望ましい関係を構築する能力

②学科等

(工学部 電気電子工学科 機械工学科 建築土木工学科 原子力技術応用工学科の理念・構想)

- ①技術者倫理に基づき実務における適切な判断・処理が行える能力を付与する指導ができる教員の養成。
- ②電気電子・機械システム・建築土木技術・原子力技術分野の専門知識を基盤とした教科「工業」で扱う幅広い分野への応用力を身につけた教員の養成
- ③電気電子・機械システム・建築土木技術・原子力技術分野の公共性、社会的重要性を理解し指導できる教員の養成。
- ④電気電子・機械システム・建築土木技術・原子力技術分野における実務を理解し、実践的指導力を身につけた教員の養成。

(環境情報学部 環境・食品科学科の理念・構想)

- ①科学に対する健全な倫理観並びに確かな自然観と物質観を身につけた教員の養成
- ②教育現場で授業を行う能力だけでなく、個々の生徒の疑問に対してもわかりやすく答えられるだけの素養を身につけた教員の養成
- ③生徒が興味を示す実験の立案や実験を安全に行うための指導法など、十分な実験技法を身につけた教員の養成
- ④コンピュータをはじめとするICTを活用し、生徒が主体的に学ぶことのできる授業を実践する能力を身につけた教員の養成

(環境情報学部 経営情報学科)

- ①情報倫理教育の重要性を十分身につけ、実務における適切な判断・処理が行える能力を付与する指導ができる教員の養成。
- ②情報に関する専門基礎知識と豊かな創造力を備え、情報化社会の進展に興味関心を持ち続けることの出来る教員の養成。
- ③情報通信技術に関して高等学校の現場で児童生徒が興味を示す情報活用の方法が提案できる教員の養成。
- ④コンピュータをはじめとするICTを活用し、生徒が情報や情報手段を主体的に活用できる授業を実践する能力を身につけた教員の養成。

(環境情報学部 デザイン学科)

- ①環境倫理および情報倫理、技術者倫理などの基本的な倫理観を身に付け、生徒の人格形成の上で模範となれる教員の養成。
- ②環境問題や資源・エネルギー問題など現代社会における課題を理解した上で、快適で持続可能な生活環境づくりの視点に立って指導できる教員の養成。
- ③自らのデザイン制作体験をもとに、教科「工業」で扱う幅広いものづくり分野に対する生徒の興味を引き出せる教員の養成。
- ④実習における作品制作やPBLでの体験をふまえ、困難な課題に対しても果敢に挑戦し、試行錯誤しながら解決方法を模索できるヴァイタリティのある教員の養成。

(スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科の理念・構想)

- ① 体育・スポーツの意義や役割、体育・スポーツの福祉社会でのあり方、生命・健康生活・人生観など豊かな生涯生活の探求など社会のニーズに貢献できる教員の養成。
- ② 体育・スポーツ・健康学に関する学問領域を幅広く理解し、さらに測定評価学や、スポーツバイオメカニクスの専門分野を深く学問したうえで、健康増進や競技力向上など、対象の需要に応じた適切な指導ができる実技指導能力を有する教員の養成
- ③ 情報処理や専門の測定器を利用した分析などの技術を習得し、指導時に実際にそれらのツールや技法を活用できる応用力をもった教員の養成
- ④ 安全管理や救急処理、衛生・公衆衛生学など、保健分野における専門的知識を有し、生涯にわたっての健康づくりへの興味・関心を生徒に伝えることができるとともに、自らも万が一の事故への対応や予防措置をとることのできる安全管理・危険回避能力を備えた教員の養成。